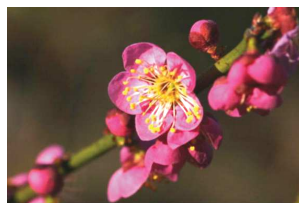


少年

第419号(1) 令和3年 2月(如月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 山岸正人



次への一步を踏み出す



「スポーツは見る者に勇気を与えてくれる。」この言葉の通り、山梨学院高校サッカー部のイレブンが勇気と感動を私たちに届けてくれました。イレブンのひたむきな姿に力をもらいました。感動を「ありがとうございました」。

今年度も残すところ2ヶ月。この1年間のまとめをして、進級・進学などに備える準備の時期になります。3月になれば、卒業式などの行事を控えて慌ただしくなるため、2月が落ち着いて1年間を振り返るチャンスです。自分の成長を振り返り、今年度の成果と課題をしっかりとまとめ、夢を持って、次への一步を踏み出せるようにしていきたいと思ひます。

デジタル・デトックス

朝起きて、まずやるのはスマホに手を伸ばすこと。勉強をしている最中、新しい情報の着信音が聞こえ、スマホを手に取りたい衝動に駆られる。何か大事なこともかもしれない。やはり手を取り、ついでにさっき投稿した写真に「いいね」がついていないか、チェックする。勉強は遙か彼方に。



動画を見る。AIが個人の視聴傾向を把握し、好みに合わせてどんどん次を紹介していく。

本を読むことに集中するのが難しくなった。1日の最後にやるのはスマホを枕元に置くこと。

現在、大人は1日に4時間、10代の若者なら4~5時間をスマホに費やしている。1日に2600回以上、スマホを触り、平均して10分に一度手を取っているという。

時間の無駄と自覚していても。



スマホに関してこんな研究がある。

大学生を対象とした記憶力と集中力の調査で、スマホを教室の外に置いた学生の方がサイレントモードにしてポケットにしまった学生よりも記憶力などが高かったという。学生自身はスマホの存在に影響を受けているとは思ってもいないのに、ポケットに入っているだけで学習効果、記憶力、集中力が阻害された。

ある国では1000人近くが丸一週間、SNSを完全に止める実験を行った。実験後、人生に満足を感じ、ストレスが減り、自分の周りの人たちと「顔を合わせる」時間が増えたという結果が出た。

スマホは依存性が高く、脳内のシステムを支配してしまうという。脳は周囲の新しい情報を取り入れることによって、報酬としてドーパミンという快感を感じる物質が放出されるようになっていく。現代はスマホが新しい情報を運んでくるため、クリックするたびにドーパミンが放出されるのだ。さらに新しい情報を得られる“かもしれない”という不確かな状況の方が、より多く、放出されるという。

中でもSNSは「大事な情報があるかもしれない」と脳を強くあおり、依存性はさらに高くなる。



こんなエピソードがある。フェイスブックの「いいね」の開発者は、その依存性の高さに気づき、自らスマホ使用を制限するためのアプリをインス

トールした。ipadを開発したスティーブ・ジョブズ氏は「自分の子どもをそばにはipadを置くことすらしない」と話し、マイクロソフト社のビル・ゲイツ氏は子どもが14歳になるまでスマホを持たせなかったという。

デジタル・デトックスとは、スマホなどのデジタル機器の使用を自発的に控えることである。

私たちはスマホの便利さや楽しさに慣れるがあまり、スマホとの距離が保てなくなっているかもしれない。自らを振り返りたい。

出典：アンデュー・ハンセン「スマホ脳」新潮社

あこがれ

ある講演会で「人を動かすのは『あこがれ』である」と聞いたことがある。自分自身を振り返ってみても「あんな大人になりたい」「あんな先輩になりたい」という目標を持って生きてきたような気がする。

逆の場合もあった。「あんな大人になりたくない」とか「あんな先輩になりたくない」と思ったこともある。これも立派な反面教師だ。その人と逆のことをすればいいのだから、それなりに具体的な目標を持つことができた。

私たちはそれまでに接してきた人の中から、自分の生き方の目標を作り出している。私自身、小中高、学生時代、そして就職して忘れられない先輩がいた。その先輩にあこがれて、部活動や、勉強、仕事を頑張ってきたのだと思う。



あこがれられる人とは…。

けっして目立つ人やスター選手だけがあこがれの対象になるわけではない。むしろ実力がないのに格好をつける人は嫌われものだ。どんな時でも自分の役割をきちんとこなしている人、見えなるところでみんなのために働いている人、そんな人にあこがれを持つ場合も多いのだ。

春、また新たな出会いを迎える。自分をさらに成長させていきたい。

あこがれられる人になるために。



参考文献：川上雅次 教育開発研究所

「迷ったら、勇気のいる方(ほう)を選ぶ」

これは、朝日新聞の「私の折々のことばコンテスト2020」で紹介された、母親が生徒会に入ろうか迷っていた娘にかけた言葉です。

私たち子どもたちが夢や目標に向かって、次の一步を踏み出せるように、そっと背中を押してあげられる存在でありたいと思ひます。

発行番号は昭和61年初号からの通算番号です。

https://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html

少年の非行防止、健全育成に御協力を

令和2年中(1月~12月)の少年非行等の概要について

令和2年中の「県下非行少年等検挙・補導状況」が発表されました。概要は、右の「非行少年等補導状況 前年対比」のとおりです。

『刑法犯少年』(触法少年11人を含む)の検挙・補導人員は、139人で元年中と比較すると、-18人(-11.5%)と減少しています。

成人を含めた全刑法犯検挙人員に占める犯罪少年の割合は、12.2%で、前年比+0.3%です。

『不良行為少年』は、4,341人で、前年比-494人(-10.2%)です。不良行為の中で67.9%を占めるのが、「深夜はいかい」と「喫煙」です。「深夜はいかい」では1,569人、「喫煙」では1,380人の少年が補導されています。不良行為は非行の入り口。この段階での適切な指導が、少年の将来を大きく左右することは言うまでもありません。

『刑法犯少年』の「年齢別」と「学職別」の数値は次のとおりです。

刑法犯少年年齢別			刑法犯少年学職別		
年齢	人数	割合(%)	学職	人数	割合(%)
13歳以下	11	7.9	小学生	6	4.3
14歳	10	7.2	中学生	21	15.1
15歳	10	7.2	高校生	54	38.8
16歳	24	17.3	有職少年	27	19.4
17歳	45	32.4	無職少年	24	17.3
18歳	23	16.5	その他	7	5.0
19歳	16	11.5	合計	139	
合計	139				

区分	対比	非行少年等補導状況 前年対比		増減	
		令和2年 1~12月中	令和元年 1~12月中	人員	増減率
非行少年等総数		4,507	5,041	-534	-10.6
うち女子		745	1,143	-398	-34.8
非行少年計		166	206	-40	-19.4
うち女子		27	39	-12	-30.8
刑法犯少年		139	157	-18	-11.5
うち女子		16	25	-9	-36.0
犯罪少年		128	134	-6	-4.5
うち女子		12	19	-7	-36.8
触法少年		11	23	-12	-52.2
うち女子		4	6	-2	-33.3
特別法犯少年		8	18	-10	-55.6
うち女子					-
犯罪少年		8	13	-5	-38.5
うち女子					-
触法少年			5	-5	-100.0
うち女子					-
ぐ犯少年		19	31	-12	-38.7
うち女子		11	14	-3	-21.4
不良行為少年		4,341	4,835	-494	-10.2
うち女子		718	1,104	-386	-35.0

非行少年等とは

「少年」・・・20歳未満の少年少女

1. 非行少年

- ①刑法犯少年(窃盗、暴行、傷害など刑法犯の罪を犯した少年)
 - ア 犯罪少年(14歳以上20歳未満) イ 触法少年(14歳未満)
- ②特別法犯少年(刑法犯以外の罪を犯した少年)
 - ア 犯罪少年(14歳以上20歳未満) イ 触法少年(14歳未満)
- ③ぐ犯少年(将来罪を犯し、または、刑罰法令に触れる行為をするおそれのある少年)

2. 不良行為少年

非行少年には該当しないが、飲酒、喫煙、深夜はいかい、けんかなど、自己または他人の徳性を害する行為をしている少年

『不良行為少年』の「年齢別」と「学職別」の数値は次のとおりです。

不良行為少年年齢別		
年齢	人数	割合(%)
10歳以下	25	0.6
11歳	11	0.3
12歳	13	0.3
13歳	32	0.7
14歳	201	4.6
15歳	335	7.7
16歳	773	17.8
17歳	1,473	33.9
18歳	978	22.5
19歳	500	11.5

不良行為少年学職別		
学職	人数	割合(%)
小学生以下	39	0.9
中学生	391	9.0
高校生	1,443	33.2
大学生	126	2.9
その他学生	94	2.2
有職少年	1,032	23.8
無職少年	1,216	28.0

年度末がせまり、子供の気分も緩みがちです。
学校・家庭・地域で連携した非行防止の取り組みを!

